

高校数学の網羅系参考書と「One More」の紹介

犬飼シムラ
Onemath

本稿を読むとわかること

- ・市販の代表的な網羅系参考書の特徴と選び方
- ・各参考書の難易度や対象となる学習者層の比較
- ・筆者作成の「One More」の位置づけと活用法

目次

1	網羅系参考書とは	1
1.1	有名な網羅系参考書の紹介	2
1.2	網羅系参考書の選び方のポイント	3
2	自作参考書「One More」の紹介	3
2.1	「One More」のレベル感	3
3	市販の網羅系参考書の紹介（詳細）	5
3.1	青チャート紹介	5
3.2	Focus Gold 紹介	5
3.3	NEW ACTION LEGEND 紹介	5
3.4	市販の網羅系参考書と「One More」との併用	5
4	まとめ	6

1 網羅系参考書とは

網羅系参考書とは、高校数学の全範囲を一冊で体系的に学べるよう構成された問題集・解説書です。本稿では、その特徴や代表的なシリーズを紹介します。

網羅系参考書は、教科書に沿った基礎事項から大学入試レベルの応用問題まで幅広く扱い、典型問題の解法や重要事項を体系的に学べるのが特徴です。授業の復習や受験対策の定番として多くの進学校でも活用されてきました。

一冊で効率的に知識を積み重ねられる反面、問題数が膨大で、すべてをやり切ろうとすると大きな負担になることもあります。したがって、自分の目的や学力に合った参考書を選び、計画的に使いこなすことが重要です。

1.1 有名な網羅系参考書の紹介

現在、市販されている網羅系参考書にはさまざまな種類があります。代表的なものとして、数研出版の「チャート式基礎からの数学」シリーズ（いわゆるチャート式）、新興出版社啓林館の「Focus Gold（フォーカスゴールド）」シリーズ、東京書籍の「NEW ACTION LEGEND（ニューアクションレジェンド）」シリーズなどが挙げられます。これらはいずれも高校数学の重要事項を幅広く収録した参考書で、多くの高校や予備校で使用されたり、受験生に支持されたりしてきた実績があります。

特にチャート式シリーズは、表紙の色によって「白チャート」「黄チャート」「赤チャート^{*1}」「青チャート」と呼称されることが多く、難易度の段階もその色によって区別されています。この中で最も易しいとされる「白チャート」は基礎事項の定着を重視した内容で、教科書レベルの典型問題を中心に扱います。「黄チャート」は基礎から発展レベルまで幅広く対応し、初めて本格的な参考書に取り組む学習者にも向いています。「赤チャート」は発展から最難関レベルまでを重点的にカバーする上位層向けの参考書です。そして、シリーズの中でも代表的な「青チャート」は、基礎から発展 + α レベルまで非常に多くの問題を収録し、大学入試における幅広い問題への対応力を養える定番の一冊です。

それぞれの参考書には特徴がありますが、共通して言えるのは「網羅性の高さ」と「学習を支える丁寧な解説」があることです。例えば、青チャートは要所で基本事項の証明まで扱う点が特徴であり、標準から発展までの演習を通して確かな理解と応用力を身につけられます。Focus Gold は実践的な演習問題を通して実力を高められる点に強みがあります。また、NEW ACTION LEGEND は丁寧な考え方や解説を重視しており、思考プロセスをしっかりと理解しながら学べるのが特徴的です。このように、有名な網羅系参考書はどれも独自の工夫がありますが、いずれも高校数学の学習において心強い味方となるでしょう。

シリーズ	想定難易度帯	解説の傾向	適した学習者像
白チャート	基礎～応用	基礎の定着	基礎固めを最優先
黄チャート	標準～発展	バランス型	初の本格演習に
青チャート	標準～発展 + α	網羅 + 要所で証明	広く対応力を養成
Focus Gold	標準～難関	実践的演習が厚い	演習で伸ばしたい
NEW ACTION LEGEND	標準～発展 + α	思考過程を重視	記述・論理を鍛える

表1 主要シリーズの比較（筆者見解）

^{*1} 版や年度によっては設定がない場合もある

1.2 網羅系参考書の選び方のポイント

どの網羅系参考書も高校数学の重要事項を網羅しているため、本質的な内容に大きな差はないとよく言われます。したがって、もし学校から既に特定の網羅系参考書が配布されているのであれば、まずはその一冊をしっかりと活用するのが良いでしょう。「〇〇より△△の方が優れている」といった明確な優劣をつけるのは難しく、重要なのは選んだ参考書を最後までやり抜くことです。

自分で新たに選ぶ場合には、いくつかの観点を考慮すると良いです。第一に、自分の学力レベルや目標とする大学のレベルに合わせて難易度を選びます。数学が得意で難関大学を目指す場合は、青チャートや Focus Gold, NEW ACTION LEGEND のように応用問題まで含むものが適しています。一方、基礎固めを重視したい場合や難しい問題にいきなり取り組むのが不安な場合は、白チャートや黄チャートなどやや易しめのものから始めるのも一つの方法です。第二に、解説のスタイルや自分との相性も重要です。例えば、文章や図を用いた丁寧な説明が欲しい人には NEW ACTION LEGEND が合うかもしれませんが、実践的な演習を積みながら力をつけたい人には Focus Gold が向いているかもしれません。書店で実際に手に取ってみて、レイアウトや解説の雰囲気を確認してみると、自分にとって使いやすい一冊が見えてくるでしょう。

いずれにせよ、一度決めた参考書を繰り返し復習し、わからない問題は飛ばさず理解するよう努めることが成績向上の近道です。周囲の友人が使っている参考書と異なっても焦る必要はありません。それぞれの網羅系参考書で扱っている内容は共通する部分が多いため、大切なのは「どの参考書を使うか」よりも「どう使いこなすか」です。

※ ここまで市販の代表的な参考書を紹介してきましたが、以下では筆者が作成した参考書についても紹介します。学習の一助として、参考程度にいただければと思います。

2 自作参考書「One More」の紹介

「One More」は、本稿の筆者（犬飼シムラ）が高校数学の体系的な学習を目的にまとめた参考書です。従来の網羅系参考書と同様に主要な事項を幅広く扱いながら、学習のしやすさやデジタル環境での利用を意識した構成を取り入れています。

例題や練習問題は典型的なものを中心にまとめられており、基礎から発展レベルを段階的に身につけることができます。解説は可能な限り簡潔かつ一貫した記述を心がけており、1人の著者が全体を執筆しているため、用語や記述の統一性が保たれています。

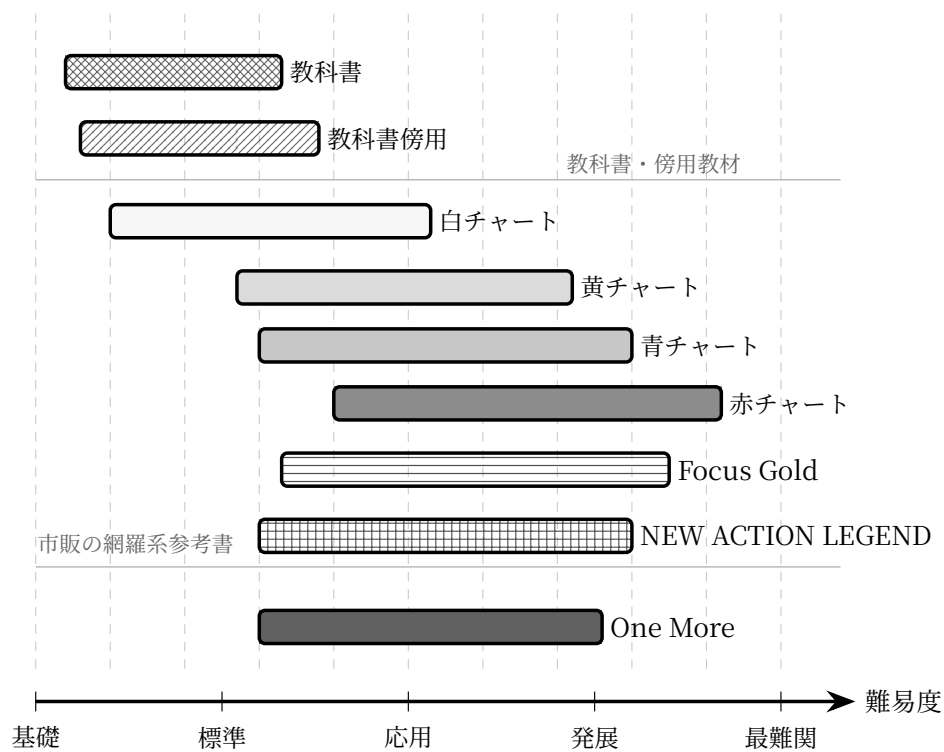
また、公式サイト (<https://onemath.net>) から PDF 版を利用でき、例題ごとの解説動画^{*2}やリンク機能により学習を補助することも可能です。PDF を印刷して紙媒体で利用するのはもちろんのこと、スマートフォンやタブレットでも閲覧できるようになっています。このように「One More」は、従来型とデジタルの双方の特徴を持ち、状況に応じて使えるよう意識した構成となっています。

2.1 「One More」のレベル感

「One More」の難易度は、中堅からやや高めに位置づけられます。黄チャートに相当する標準～発展レベルを押さえつつ、さらに一步進んだ演習も取り入れています。一方で、最難関大学向けの高度な演習を多数収録している書籍と比べると、実践的な演習問題の扱いは抑えめです。これは、典型的な問題を重視し、まずは基礎学力を確実に身につけることを目的としているためです。

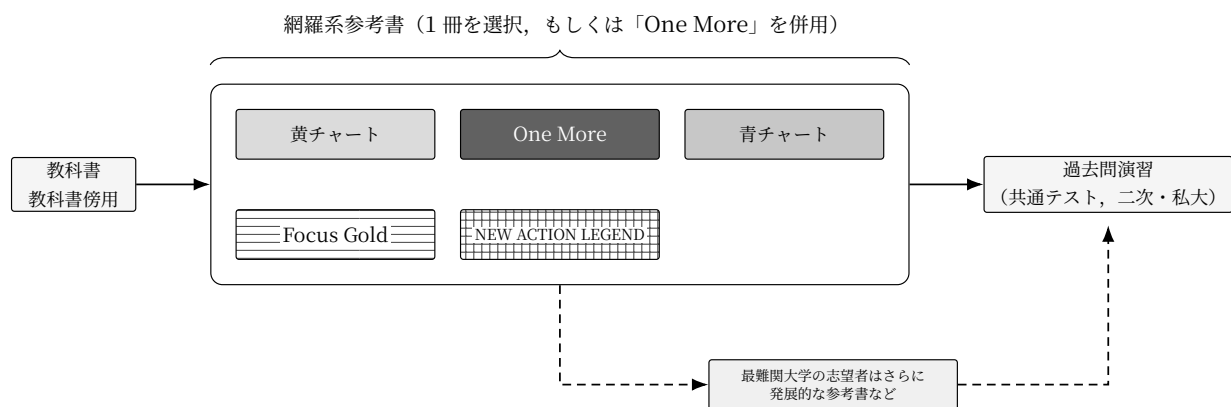
初めて網羅系参考書に取り組む学習者にとっても扱いやすく、受験に必要な土台を固めるのに適した難易度となっています。

^{*2} 例題にはそれぞれ対応する解説動画を設けています。



※ 本図は筆者個人の見解に基づく概念図です。出版社・著者による公式な見解ではありません。

図 1：高校数学の網羅系参考書のレベル感（目安）



※ 本図は筆者個人の見解に基づく概念図です。実際の到達ルート・時期は個々の状況で調整してください。

図 2：難関大入試までの学習ロードマップ（一例）

3 市販の網羅系参考書の紹介（詳細）

3.1 青チャート紹介

青チャート（チャート式基礎からの数学）は、数研出版を代表する網羅系参考書で、全国の高校で広く採用されている定番書です。基本事項を確認するだけでなく、要所では証明まで扱うなど、基本事項の理解を深められる点が特徴であり、数学の本質的な理解を深めることができます。内容は基礎的な例題から入試標準レベル、さらに発展的な問題まで網羅されており、典型的な入試問題に対応する力をバランス良く養うことが可能です。授業や自主学習の場面で長年使われ続けてきた実績があり、「まずは青チャートから」と言われるほどの信頼感を持つ参考書として、多くの受験生にとって学習の指針となってきました。

3.2 Focus Gold 紹介

Focus Gold（新興出版社啓林館）は、基本から難関大レベルまで幅広く対応する網羅系参考書です。全体として扱う問題のレベルがやや高めで、実際の入試を強く意識した実践的な演習問題が多く収められています。例題ごとの解説は非常に丁寧で、別解や解法のポイントがよく整理されているため、知識を体系的に整理しながら学習を進められます。さらに、各所にコラムなども豊富に差し込まれ、数学への興味を広げつつ飽きずに取り組める構成になっています。「この一冊をやり切れば入試数学に十分対応できる」とされる安心感があり、特に難関大学を目指す受験生に支持されている参考書です。

3.3 NEW ACTION LEGEND 紹介

NEW ACTION LEGEND（東京書籍）は、「思考のプロセス」を重視している点が大きな特徴です。すべての例題において、どのように発想し、どこに着眼して解法に至るのが丁寧な解説されており、単に解き方を暗記するのではなく、考える力を身につけながら学べます。収録されている問題は基礎から発展まで幅広く、特に思考力が試される良問が多く選ばれているため、入試に必要な論理的思考力の養成に直結します。一冊をやり込めば記述模試や難関大の入試にも対応できる実力が養われるとされ、腰を据えて深く学びたい受験生にとって頼れる一冊です。

3.4 市販の網羅系参考書と「One More」との併用

「One More」は単独でも十分に学習を進められる参考書ですが、他の網羅系参考書や問題集と組み合わせることで、それぞれの強みを補い合い、より効果的な学習が可能となります。網羅系参考書が持つ豊富な問題量や体系的な構成に、「One More」の素早く確認できる利便性が加わることで、理解の定着や知識の整理をより進めやすくなります。

例えば、網羅系参考書で演習を積んだ後に「One More」で要点を復習すれば、重要事項を効率よく再確認できます。また、「One More」で学んだ内容を出発点に他の参考書や過去問に取り組めば、自然な流れで基礎から応用へと発展させることができます。

このように、「One More」は、他の参考書とあわせて利用することも可能で、学習内容の確認や補助的に使いやすい設計になっています。学習の目的や状況に応じて、市販の参考書と組み合わせて取り入れることができます。

4 まとめ

高校数学の学習において、網羅系参考書は知識と問題演習をバランス良く積み重ねるための強力な味方です。本稿では、代表的な網羅系参考書である青チャート、Focus Gold、NEW ACTION LEGEND を紹介するとともに、新しく作成した「One More」について詳しくまとめてみました。それぞれの参考書に特色があり、学習者の好みや目的に応じて使い分けることができます。

どの参考書にも共通して言えるのは、「継続して取り組めば着実に力がついていくことが期待できる」という点です。分厚い問題集も、一ページ一ページ解き進めていけば着実に実力が身につきます。大切なのは、自分に合った一冊（必要に応じて補助的にもう一冊）を選び、日々コツコツと学習を積み重ねることです。

最後に、自分が使っている参考書に愛着を持って取り組んでみてください。青チャートでも Focus Gold でも、NEW ACTION LEGEND でも「One More」でも、「この一冊をやり遂げるぞ」という前向きな気持ちは何より大切です。参考書はあくまで皆さんの努力を支える道具です。うまく活用し、自分の力に変えていけば、きっと数学の成績や理解度も向上していくでしょう。皆さんの健闘を祈っています。

参考書リンク一覧（紹介・購入案内）

以下は、本記事で紹介した参考書の出版社の案内ページです。内容や最新版の情報、購入方法などはリンク先をご覧ください。

- ・チャート式（数研出版）
シリーズ案内：<https://www.chart.co.jp/top/chart/>
高校・参考書一覧：<https://www.chart.co.jp/goods/sugakuist/s001.html>
- ・Focus Gold（新興出版社啓林館）
5th Edition：<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/math2022/subtext/focus1/>
6th Edition：<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/math2022/subtext/focus6th/>
- ・NEW ACTION LEGEND（東京書籍）
シリーズ総合案内：<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/hs/sugaku/h-kyozai/>

※ 補足：本稿で紹介した市販の網羅系参考書は、専門家によって執筆・編集され、長年の実績を持つ完成度の高い教材です。これに対し「One More」は個人が執筆したものであり、編集体制や検証の厚みといった点では市販書の完成度には及びません。ただし、その分デジタル利用や学習補助に特化した構成を意図しており、市販書の補完的な活用を想定しています。